

友成工業株式会社

ポイント

◆被災の教訓を活かし、社員が一丸となって防災・減災に取り組んでいる事例

所在：岡山県倉敷市真備町箭田39番地

業種：製造業（窯業・土石製品製造業）

従業員：19名（令和4年12月時点）※パート・アルバイト含む



水害のリスク
浸水想定 5.0m（倉敷市ハザードマップ）
地震のリスク
震度6以上 49.1%（J-shis マップ）
液状化の危険度 高い

企業の概要について

「シェルモールド中子（なかご）」という砂型を製造。主に産業機器、公共事業部品、JR、農機具、自動車等に使用され、高度な製造技術を活かし、試作品から量産まで徹底した品質管理のもと、3,000種にわたる製品を取り扱っている。コールドボックス、シェルモールド、フランの3工法を実施できる岡山県内の唯一の会社である。

商品の紹介



コールドボックス
（ガス硬化性鋳型）

シェルモールド
（熱硬化性鋳型）

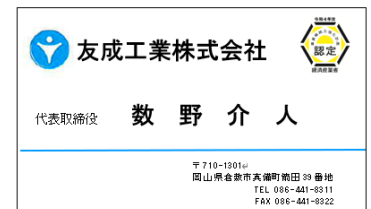
フラン
（自硬化性鋳型）

なぜ事業継続力強化計画作りに取り組んだのか

サプライチェーンの根幹を支えているため、物流を止めないようにしようと対策を考えていたところ西日本豪雨で被災。被災をきっかけにBCPへの意識が高まった。

（イメージ）

ロゴマークを活用している名刺



被災状況

- ◆ヒト 周辺道路の寸断や公共交通機関の停止により、従業員の参集が困難であった
- ◆モノ 工場内5mの浸水（工場の天井のみ浸からなかった）
生産に使う20台近くの造型機や木型、金型、工具、車両（トラック・フォークリフト）が水没
電力、水道の供給が停止（電力5日間、水道17日間）
- ◆カネ 保険等による建物や設備損壊等への補償内容が不十分であった
- ◆情報 PCのデータや書庫に保存していた重要書類が水没し、使用できなくなった

◆その他 泥の掻き出しに長時間要し、すぐに復旧できなかった

支援の輪 同社の技術を必要とする全国の人たちがバックアップ

- ・日本の製造業ならではの連帯感により、東海から九州などの取引先業者も駆けつけ、復旧作業を手伝ってくれた。

被災地への復旧支援

◎2018年12月災害復旧義援金の寄付

- ・たくさんのご恩を少しでも被災地に還元できればという思いで倉敷市へ義援金の寄付。

◎2019年10月被災地支援

- ・西日本豪雨で被災した経験を活かしたいという思いで、令和元年東日本台風の被災地である長野県長野市へ社長含む3名派遣。
- ・支援物資・工具・高圧洗浄機を寄贈。

取組の紹介

事前対策

◆ヒト



- ◎安否確認システムの導入
- ◎リモートで経理ができるようファームバンキングを活用
- ◎「警戒レベル4」到達時に操業停止及び従業員の避難を実施

◆モノ

- ◎BCP発動時における原材料の代替材料の調達先の確保
- ◎ポスター掲示で有事に備える
- ◎重要書類の保護



💡ポイント

重要書類は災害に備え
ジップロックに入れて
保管



◆カネ

- ◎保険の見直し

◆情報



- ◎バックアップデータはクラウド上に保存

代表取締役からのメッセージ

豪雨災害では多くの関係者のご支援やご協力を頂き、早期に生産再開することができ感謝の気持ちでいっぱいです。被災の経験から、今後もより安定した製品供給への取組みや災害発生に備えた環境整備をおこない、これからも社会に貢献していきたいと考えています。



代表取締役の数野さんと専務取締役の高尾さん